

令和 7 年 第 1 回定例会

一 般 質 問

〔個 人 質 問〕

印 西 市 議 会

令和 7 年第 1 回定例会一般質問（個人質問）一覧

順 番	議員番号	議 員 名	質問方式
1	1 9 番	板 橋 睦	登壇一問一答方式
2	5 番	津 田 憲 吾	一問一答方式
3	6 番	都 築 真理子	一問一答方式
4	1 8 番	金 丸 和 史	登壇一問一答方式
5	1 5 番	増 田 葉 子	一問一答方式
6	1 6 番	松 尾 榮 子	一問一答方式
7	1 4 番	近 藤 瑞 枝	一問一答方式
8	9 番	藤 江 研 一	一問一答方式
9	7 番	林 勝 利	登壇一問一答方式
1 0	2 0 番	山 田 喜代子	登壇一問一答方式
1 1	8 番	松 谷 知 美	一問一答方式
1 2	3 番	加 藤 亮 二	一問一答方式

質 問 1

質問者 19番 板 橋 睦

1 学校問題について

- (1) 原小学校過大規模校の対応に係る意見交換会について
- (2) 船穂小学校について
 - ①小規模特認校制度の検証の結論は
- (3) 本埜中学校について
 - ①小規模特認校制度の検証の結論は
- (4) 各小・中学校の改修、増築等の工事計画について

2 印西地区環境整備事業組合について

- (1) 現クリーンセンターについて
 - ①火災状況と原因は
 - ②操業状況は
 - ③粗大ごみ、不燃ごみの状況は
 - ④今後の運営方針は
- (2) 新クリーンセンターについて
 - ①進捗状況は
 - ②地域振興施設整備計画は
- (3) 平岡自然公園について
 - ①印西霊園について
 - ア 平岡自然公園整備事業第4期墓地区画整備工事について
 - イ 今後の整備計画は
 - ウ 計画遅れによる影響は
 - ②合葬墓の利用状況について

3 印旛中央地区について

- (1) 進捗状況について

4 平和条例の制定について

- (1) 進捗状況について

質 問 2

質問者 5 番 津 田 憲 吾

1 オープンデータの可視化について

国や自治体において行政データの提供に積極的に取り組んでおり、その目的は「官民協働による社会課題解決の寄与」「行政の高度化・効率化」「透明性・信頼性の向上」が挙げられる。こうした行政データを可視化することで、様々なデータ利活用が促進され、地域課題の解決に向けた取り組みがなされている。

- (1) 当市におけるオープンデータの状況について
- (2) 当市におけるオープンデータの目的について
- (3) 今後について

2 野良猫について

野良猫をめぐって様々な近隣トラブルが多くある。近年、「地域猫活動」が各地で広がっており、野良猫の繁殖を防ぐ様々な地域活動が行われている。そうした活動においては行政との連携が不可欠である。千葉県では、平成22年に「人とねこの共生ガイドライン」を作成し、猫の適正管理の啓発に努めており、飼い主のいない猫を適正管理する「地域猫活動」を推進している。

- (1) 野良猫の現状把握について
- (2) 不妊手術の助成について
- (3) 今後について

3 図書館サービスの充実について

図書館は重要な学びの拠点である。市民の読書を支援するだけでなく、市民や地域の課題解決に向けた取り組みに必要な資料を提供することで、市民や地域を支援する役割を担う。また、生涯にわたり必要とされる知識や情報を提供していくとともに、新たな機能やサービスを提供していかなくてはならない。レファレンスサービスやリクエストサービス、貸出・予約サービスの向上、児童や高齢者、障がい者、多文化など様々なニーズへの対応が求められる。

- (1) 所蔵図書について
- (2) 図書返却について

質 問 3

質問者 6 番 都 築 真理子

1 地域共生社会の実現に向けた福祉施策の推進について

(1) 行方不明者捜索方法の現状を伺います。

- ①本市において高齢者の増加に伴い、安心・安全なまちづくりをどのように進めるべきか伺います。
- ②現在、高齢者と言われる人数の推移を伺います。
- ③本市としてどのような支援をしているのか伺います。
- ④情報共有の範囲を伺います。
- ⑤本市以外で情報共有を受けたところは、どのような支援を行っているのか把握と現状を伺います。

(2) 高齢者・障がい者の災害時避難支援の充実について

- ①高齢者・障がい者などの避難支援の現状について伺います。
- ②具体的な支援策や取り組みを伺います。
- ③地域の自主防災組織、消防、民生委員、福祉関係者が連携し、実際の避難を支援できる体制づくりができていているのか伺います。
- ④本市が現在締結している高齢者や障がい者の災害協定の種類と内容について伺います。
- ⑤協定を締結している団体の数や範囲はどの程度か伺います。
- ⑥これまでに協定が実際に活用された事例と、その成果はどうだったか伺います。

2 サラダボウル化する社会における多文化共生の推進について

(1) 現状と把握

- ①本市における外国人住民の人口動向と割合について伺います。
- ②多文化共生のために現在、市が取り組んでいる施策にはどのようなものがあるか伺います。
- ③行政サービスの多言語対応は十分か伺います。
- ④外国人児童・生徒の教育支援は十分か伺います。
- ⑤外国人住民と地域コミュニティの交流促進について伺います。
- ⑥外国人児童・生徒への教育支援の充実について伺います。
- ⑦防災対策の充実について伺います。

質 問 4

質問者 18番 金 丸 和 史

1 組織に関すること

- (1) 令和7年度において変更はあるのか。
- (2) 兼務、兼職及び併任の状況について
 - ①会計管理者と会計課長
 - ②解消することを考えるべきでは。

2 DXの推進に関すること

- (1) DX化に向けた準備状況について
- (2) 本人確認書類及び証明書申請様式の統一について
- (3) 「書かない窓口」の実現を考えているのか伺う。
- (4) DX化に向けて市長の考えは。

3 「おくやみ窓口」に関すること

- (1) 利用状況について

4 高齢者に関すること

- (1) 高齢者見守り支援活動について
- (2) 後期高齢者医療における被保険証とマイナンバーカードの一体化の状況について

5 図書館に関すること

- (1) 図書館カードの小・中学校入学時の発行について

質 問 5

質問者 15番 増 田 葉 子

1 印西市教育委員会はどのような教育現場を目指していくのか。

一昨年、県内の県立高校で、教師の不適切な言動と学校の対応により女子生徒が自殺に至る痛ましい事件があり、先ごろ第三者委員会の調査報告書とともに

に、「不適切な指導の根絶に向けた校内研修の充実」と「教師とのトラブルの相談窓口を教育委員会に設置する」ことが県教育長の謝罪とともに表明されました。

我が身と我が子で思い起こせば、教師が放った一言で負った心の傷が長年癒えずにいたことなども思い起こされ、上記の県立高校だけではなく、印西市内の教育の現場においても、それこそ掃いて捨てるほどの事例が隠れているのではないかと推察します。

令和7年度が最終年となる「教育大綱」では、学校教育の基本方針として、「生きる力を持ち未来を拓く子どもを育む」教育を掲げ、施策が展開されてきましたが、「育む」主体となるのは、教育現場で奮闘する一人一人の教職員であり、その研修や資質向上は、いったいどこが責任を持って取り組んでいくのでしょうか。

印西市の小中学校の教職員の人事権は県にあるため、研修の主体も県であるように言われます。市教育委員会はどのような役割を担い、どのような教師像を目指しているのでしょうか。

国においては、「令和の日本型教育のための教職員の資質向上、研修の充実」を打ち出しています。これらの研修は、誰の責任において推進されるのでしょうか。明確にするために以下の質問をいたします。

- (1) 不適切な指導の根絶に向け、市教育委員会の役割は何か。
- (2) 教職員人事について、市教育委員会にはどのような権限があり、制度上はどこまで拡大できるのか。
- (3) 「令和の日本型学校教育」とは個別最適で協働的な深い学びであり、教育現場には、これまでの授業観の転換を求められています。市教育委員会は実現に向けて何をしていくのか。
- (4) 市教育委員会が目指す教師像とはどのようなものか。

2 児童発達支援センターの機能は発揮されているか

発達が気になるお子さんの集団療育、保護者の交流の場として開設された子ども発達センターは、令和5年10月に児童福祉法に基づく「児童発達支援センター」として再スタートしました。法令に基づく新規事業も展開されていることと思いますが、法定施設となる前と後では、市民に提供される療育の質はどのように変化したのでしょうか。子ども発達センターの現状を一緒に考えていくために以下の質問をいたします。

- (1) 利用条件や定員はどのように変わったのか。
- (2) 新規事業の実績はどうなっているか。
- (3) 市内の「療育の中心」として必要な専門人材の確保はできているのか。
- (4) 専門性を向上させていくための研修はどのように行われているのか。
- (5) これから取り組むべき課題は何か。

質 問 6

質問者 16番 松 尾 榮 子

- 1 世界モデルの街にふさわしい、活気と魅力あふれる印西市の実現に向けた行政体制の構築について

藤代市長は令和6年7月の市長当選以来、「地域に寄り添う市役所づくり」を掲げてこられたが、その実現に向けて、初の年間予算案の作成を伴う令和7年度の具体的な取り組みを伺う。

- (1)「地域に寄り添う市役所づくり」について

- ①各支所・出張所の機能強化についての取組方針
- ②地域担当課、地域コーディネーターの配置は、令和7年度予算に反映されるのか。
- ③コスモスパレットⅡのオープンに伴う中央駅前出張所の機能強化について
- ④令和7年度の土日開庁の実施方式について

- (2) 公共施設適正配置について、現在までの検討状況と令和7年度からの取り組み

- ①市役所本庁の配置について
- ②牧の原駅圏複合施設について
- ③印旛歴史民俗資料館について
- ④その他の公共施設について

- 2 地域・市民と連携した防災体制づくりについて

近年、地域のコミュニティ力が年々低下してきていると言われる中においても、市民が自ら、また地域や行政との協働で生命と暮らしを守る防災活動は、地域コミュニティの最も重要な要素の一つである。そこで伺う。

- (1) 令和6年度総合防災訓練の総括と令和7年度事業について

- ①令和6年度総合防災訓練について
 - ア 総参加者数
 - イ 新規の取り組み
 - ウ 成果と課題
- ②令和7年度市総合防災訓練の実施予定について

- (2) 市の防災備蓄体制について

- ①基幹防災倉庫、指定避難所防災倉庫の構成、役割分担と連携の考え方について
- ②中央駅圏に4月オープンする「コスモスパレットⅡ」に設置された屋内型の防災備蓄倉庫は、市の防災備蓄体制の中でどのような位置付けにな

るか。

③コスモスパレット防災備蓄倉庫の備蓄内容と活用計画について

④今後の基幹倉庫の整備計画について

(3) 地域・市民と連携した防災体制づくりについて

①地域ごとの防災組織の連携と活動支援について

②各避難所の防災倉庫の管理と整理について

3 市内進出企業等の動向と計画の把握について

市内において、多くの企業進出、住宅建設、新規開業等が続いている。また、撤退した企業等の跡地の開発、駐車場用地の新規開発等も行われている。市内のこうした企業動向について、市として把握し、計画的なまちづくりを進める必要がある。そこで伺う。

(1) 新規企業進出・開業・廃業等の状況について

(2) 跡地等開発の状況について

(3) 住宅建設・販売等の動向について

(4) 新規住宅・マンション等の分譲と通学区域について

4 送迎保育ステーションについて

令和4年6月定例会及び令和5年3月定例会において、流山市や他市で先行している送迎保育ステーションについて質問と提言を行った。そのときの答弁は、「送迎保育ステーションについては、まずは先進的な事例の情報収集を行い、保護者や当市にとって効果のある事業の実施方法を検討してまいりたい」ということだったが、令和6年12月議会で、大崎亜希議員の質問に対し、令和8年4月から開始予定との答弁があった。2年前の答弁から、どのような検討が行われ、どのような方式で実施することになったのか、具体的な内容について伺う。

(1) これまでの検討経過

(2) どのような方針で、どこを拠点に実施するのか。

(3) 送迎についての実施方針

(4) 開始までのスケジュールについて

質 問 7

質問者 14番 近 藤 瑞 枝

1 コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）について

文部科学省は、『コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）は、学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校」への転換を図るための有効な仕組みです。』とし、地域と一体となって子供たちを育む「地域とともにある学校づくり」を推進している。

（1）コミュニティ・スクールについてどのように考えているか。

2 町内会・自治会新規設立への支援について

町内会・自治会の解散や加入率の低下が顕著になる一方で、町内会・自治会のない地域住民からの相談が増加している。

（1）町内会・自治会の意義をどう考えているか。

（2）町内会・自治会のない地域はどこか。

（3）町内会・自治会があたるべき事象について、町内会・自治会のない地域住民へはどのように対応しているのか。

（4）町内会・自治会設立への支援はあるか。

3 産後の父親支援について

令和5年度の男性育児休業取得率は30.1%であり、一般職常勤の国家公務員においては80.9%という発表があった。なお、印西市職員の令和5年度取得率は88.9%である。取得が促進され男性の育児参加が進む中で、父親の「産後うつ」も指摘されるようになった。

（1）市職員における令和6年度の男性育児休業取得の状況はどうか。

（2）父子手帳は活用されているか。

（3）産後の父親支援はあるか。

4 ナッジの活用推進について

ナッジは、ノーベル経済学賞を受賞したリチャード・セイラー教授らが提唱した理論であり、人間の心理を応用して望ましい行動に導くものである。ナッジを利用した例は、日常生活で多々目にするようになったが、ナッジ理論を活用する自治体の事例もまた多く確認できる。

（1）市でナッジ理論を活用している例はあるか。

（2）積極的に取り入れる考えはないか。

5 公共施設のトイレへの無償生理用品設置について

印西市市民活動公益団体 Shake Hands は、2021 年（令和 3 年）6 月の中央駅前地域交流館、小倉台図書館を皮切りに、市内 15 の公共施設に無償生理用品の設置、補充管理を行っている。経済力を持たない生徒・児童が学校の休みの日にも不自由のないように、各中学校区に最低 1 箇所の設置を心掛けて設置場所の選定を行った。

コロナ禍において「生理の貧困」問題が顕在化したが、福祉の観点からだけではなく女性の社会進出向上の視点から、生理用品はトイレットペーパーと同様であるという認識が必要と考える。全ての公共施設に無償の生理用品が設置されている状況が理想であるが、現時点で市民団体による実施は困難である。

2024 年度（令和 6 年度）自治体経営力ランキング「自治体四季報」によれば、全国 1741 自治体のトップとされた印西市である。男女共同参画を標榜する先進地となるべく、市内公共施設において無償で生理用品が利用できる環境を整えてはどうか。

- （１）商業施設・オフィス・学校・公共施設などの個室トイレに生理用品を常備し無料で提供するサービス、OiTr（オイテル）を知っているか。
- （２）無償生理用品未設置の公共施設に OiTr（オイテル）導入の考えはないか。

質 問 8

質問者 9 番 藤 江 研 一

1 子育て支援・教育の充実について

（１）保育園児駅前送迎ステーション

- ①市長公約の検討状況
- ②送迎ステーションと既存保育施設の連携
- ③国の補助金の活用検討
- ④職員の配置と緊急時の連絡体制
- ⑤想定される実施までの今後のスケジュール

（２）東の原地域の児童・生徒数増加への対応

- ①原小学校分離新設の検討状況
- ②候補地選定状況
- ③西の原中学校増築の検討状況

- ④保護者等への説明状況
 - (3) 子ども誰でも通園制度
 - (4) 小中学校の教員定数増と未配備解消
- 2 国の経済対策の推進について
- (1) 低所得世帯、低所得の子育て世帯への給付金
 - (2) 年収の壁解消と所得増
 - (3) 地域公共交通対策支援の活用

- 3 誰もが輝く、誰ひとり取り残さない社会の実現について
- (1) 認知症施策の推進
 - (2) 避難所の生活環境改善と災害対応体制強化
 - (3) 機能別消防団と消防団員の業務負担軽減
 - (4) ふるさと納税代理寄付
 - (5) 新たなデータセンター・物流倉庫の誘致
 - (6) 道路区画線等の補修工事予算の拡充と継続

質 問 9

質問者 7 番 林 勝 利

- 1 外国資本による土地取引の実態把握と地域への影響について
- (1) 市内で外国資本による土地取引が行われている事例について、市としてどの程度実態を把握しているか伺う。
 - (2) 過去5年間における市内の土地取引について外国資本によるものの割合はどの程度あるか伺う。
 - (3) 土地取引が特定の用途（農地・商業用地など）に集中している傾向はあるか伺う。
 - (4) 外国資本による土地買収が地域のコミュニティや治安に与える影響について、市はどのように考えているか伺う。
- 2 部活動地域移行について
- (1) 部活動の地域移行に関する基本方針について、市の取組状況を伺う。
 - (2) 市が運営主体となり地域クラブチームを設立する考えはないか伺う。
 - (3) スポーツ振興くじ（toto）の助成金を活用する考えはないか伺う。

- (4) 経済的な理由でクラブチームに参加できない子どもを支援するための具体策は検討しているか伺う。
- (5) 地理的な理由でクラブチームに参加できない子どもを支援するための具体策は検討しているか伺う。
- (6) クラブチームの運営資金や指導者の確保について、市の考えを伺う。

3 アップサイクルを活用した廃棄物削減について

- (1) 市では年間どのくらいの廃棄物が発生しているか伺う。
- (2) リサイクルされている廃棄物や資源ごみの量について伺う。
- (3) 処理が難しい廃棄物にはどのようなものがあるか伺う。
- (4) 学校や公共施設から出る廃材や古い備品をアップサイクルする取り組みを進める考えはないか伺う。
- (5) 市民が参加できるアップサイクルのワークショップイベントを開催する考えはないか伺う。

4 塾代バウチャーの導入について

- (1) 市が実施している子どもの学習支援事業について利用状況を伺う。
- (2) 子どもの学習支援事業は参加できる人数や地域に限りがある。これを補完する考えはないか伺う。
- (3) 塾代バウチャーを導入することで地域格差や所得格差を軽減できると考えるが、市の考えを伺う。

5 保育所の支援について

- (1) 保育所におけるICT導入について市の考えを伺う。
- (2) 印西市の保育利用定員制度について伺う。
- (3) 加配について市の考えを伺う。

6 道路安全について

- (1) 市内で発生している道路陥没事故の件数について伺う。
- (2) 道路陥没事故の原因について伺う。
- (3) 道路陥没事故を未然に防ぐための対策について伺う。

7 第4回印西まちなか音楽祭について

- (1) エントリー数と出演組数を伺う。
- (2) 市として実行委員会をどのように支援していくか伺う。
- (3) 第3回の成功例や改善点を踏まえた新しい試みはないか伺う。
- (4) 今後の広報活動やPRについて伺う。

質 問 10

質問者 20番 山 田 喜代子

1 安心の道路環境を

1月28日、埼玉県八潮市で道路陥没事故が発生した。県は、大規模な終末処理場につながる直径2m以上の下水道管の緊急点検を始めたとのことだ。市は急激な人口増、データセンターや物流倉庫の進出等に伴い、車の往来が激しくなっている。道路の陥没事故は全国的に発生しており、近隣自治体でもあるという。市はどういう状況となっているか。今後の対応、対策等について問う。

2 子育て援助活動支援事業（ファミリーサポートセンター事業）について

- (1) 利用会員、提供会員の状況はどうか。
- (2) 課題はあるか。

3 精神通院医療について

- (1) 対象者の状況はどうか。
- (2) 対象者にとって利用しやすい制度となっているか。
- (3) 対象者への負担軽減についての認識はどうか。

4 「住まいは人権」としての住宅施策について

市営住宅が設置されていないのは、3市のみである。ニュータウンの入居が1984年に始まり、その後40年が経過し、住民も高齢化が著しい。年金生活や生活困窮の市民は、他の自治体の県営住宅へと転居している。住み慣れたまちに住み続けられるよう、市として住宅を保障すべきではないか。UR賃貸住宅を活用し、高齢者のみならず、多くの年代の市民が住める市営住宅として、家賃補助等をする考えはないか。

5 教員の長時間労働の解決に向けての提案

教員の長時間労働は、子どもの成長にとって影響は大きく深刻な問題となっている。教員を増やすこと、また年間の授業時数を適正な時数に戻すなど多くの解決すべき課題がある。

市として早急に実施できることは、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの常勤化、事務職員の複数配置、学校用務員や事務職員の複数配置、部活動の負担の軽減などが挙げられる。

市として、どう教員の負担軽減、長時間労働の解決に当たる考えか。

質 問 1 1

質問者 8 番 松 谷 知 美

1 高齢者福祉、地域福祉について

全国の高齢化率が29%を超え、2070年には65歳以上の人口が約39%になると厚生労働省がデータで示している。高齢社会が進展する速さに比べ社会の仕組みや意識が遅れている状況の中、自治体や企業、地域社会や個人等がそれぞれの役割を果たし、新たな視点を取り入れた持続可能な高齢社会の形成が求められる。そこで伺う。

(1) 印西市地域福祉計画に関するアンケート結果について

①結果について伺う。

②分析について伺う。

③アンケート結果を今後どのような手順で政策に反映するか伺う。

(2) 切れ目ない在宅医療と介護の提供体制の構築における取り組み状況と課題について伺う。

(3) ショートステイ等の福祉的用途への空き家の活用を促進することについて考えを伺う。

(4) 国が推進する「生涯活躍のまち」について、本市における役割を伺う。

(5) 地域福祉計画の中で重点施策となっている買い物弱者支援対策の今後の方針について伺う。

(6) 救急医療情報キットの災害時活用に関する協議状況について伺う。

2 交通政策について

(1) ふれあいバス再編に向けた状況について伺う。

(2) 交通弱者対策の今後の方針について伺う。

(3) E Vバス・自動運転導入における調査研究状況を伺う。

(4) ふれあいバスのロケーションシステムの検討状況について伺う。

(5) 市民よりバスの停留所について「雨で濡れるので屋根を広くしてほしい」という声があった。市に停留所に関する要望が届いているか伺う。

(6) 自転車活用の促進について市の考えを伺う。

①自転車活用促進における市の考え方を伺う。

②自転車道整備の状況と方針について伺う。

③千葉県第2次自転車活用推進計画では、市町村における自転車活用推進計画の策定を推進している。策定については先進自治体の取り組みを注視していくとしていたが、現在の状況を伺う。

④シェアサイクリング導入における調査研究状況を伺う。

3 スポーツ施策について

- (1) 松山下公園総合体育館において、市民の親しみや市外への認知度向上を目的とした愛称を付けることについて考えを伺う。

4 デジタル政策について

我が国では「デジタルの活用により、一人ひとりのニーズに合ったサービスを選ぶことができ、多様な幸せが実現できる社会」をデジタル社会の目指すビジョンとして掲げている。その実現のためには、国や各自治体においてデータ連携等のデジタル化を促進する必要がある。そこで伺う。

- (1) 国や県の今後の動きについて伺う。
- (2) スマートシティに向けた全庁的な取り組みについて、調査研究の中で推進体制も検討するということであったが状況について伺う。
- (3) 次期DX推進方針に向けた市全体の課題抽出の状況について伺う。
- (4) まちのデジタル化の推進主体となる協議会等の設置について、調査研究状況について伺う。
- (5) フリーWi-Fiの設置について
 - ①公民館・交流館・コミュニティセンターについて検討状況を伺う。
 - ②図書館について検討状況を伺う。
 - ③学童への設置について、以前、整備予定はないとしていたが、現在の考えを伺う。
- (6) PayPayの自治体のプレミアム付商品券の発行について考えを伺う。
- (7) 市全体でデジタル化を進め、行政業務の効率化や市民の利便性向上を目指すため、スマートシティ宣言を行う考えはないか伺う。

5 イルミライ★INZAIについて

- (1) 成果と課題について伺う。
- (2) 今後の方針について伺う。

質 問 1 2

質問者 3 番 加 藤 亮 二

1 印西市における子育て支援施策の現状と課題について

印西市は、全国的な人口減少傾向とは異なり、若い世代の流入が続く恵まれた環境にあります。しかし、その一方で、市の子育て支援施策が市民のニーズ

に十分応えられているのか疑問の声も多く寄せられています。特に、学童クラブの定員超過による入所困難や、子どもが安心して過ごせる居場所の不足といった課題が解決されないままとなっており、現行の施策が実態に即しているかを早急に確認し、改善を行う必要があります。また、近年、全国的に若者の自殺が増加傾向にあり、特にいじめや児童虐待、経済的困難などの家庭環境が大きな要因と指摘されています。このような状況を踏まえ、印西市の子育て支援施策がどのように機能しているのか、課題解決に向けた方針について伺います。

(1) 学童クラブの定員超過問題について

昨年12月24日に公表されたこども家庭庁の調査によると、印西市の令和6年5月1日現在の待機児童数は104人で、全国の市町村の中でワースト43位とされています。印西市総合計画や「いんざい子育てプラン」では、令和7年度までに待機児童をゼロにする目標を掲げていますが、既に来年度の学童クラブの募集期間が終了している現時点でも、依然として多くの待機児童がいると聞いています。現在の待機児童数と、待機児童ゼロを実現するためにどのような対策を講じていくのか、伺います。

(2) 子どもの居場所確保について

安心して過ごせる放課後の居場所が不足しているとの声があるが、市としてどのような施策を講じているのか、放課後子ども教室の拡充や新たな施設の設置、地域との連携を強化するなどの計画はあるのか伺います。

(3) 子どものメンタルヘルス支援と自殺防止策について

近年、若者の自殺が増加傾向にあり、その背景には、いじめや、小さい頃から受けてきた児童虐待や経済的問題などの家庭環境が影響しているとも指摘されています。市として、子どものメンタルケアや相談支援の強化に向けた取り組みをどのように進めているのか伺います。

(4) 児童虐待防止と家庭支援の取り組みについて

印西市では、AI（人工知能）を活用した新しい子育て支援の取り組みが始められています。電話やLINEなどで寄せられた相談内容により、子どもや家庭のリスクをAIが分析し、具体的な要請を受ける前に保健師による声かけや家庭訪問などの支援につなげるという、「プッシュ型」の支援を目指す取り組みです。AI活用により、支援対象として抽出された家庭の件数と、その後の実際の支援内容（保健師の訪問・相談支援など）はどのようになっているのか、現状の取り組みの成果と課題について伺います。

2 印西市の交通施策に関する進捗状況の確認について

令和6年度第3回印西市地域公共交通会議が1月24日に開催され、協議事項4件が審議され、全て可決されました。これにより、今後の公共交通施策の方向性が示されましたが、市民の関心が高い内容も多く、さらに公平性や改善の余地があると考えられる点が複数存在します。特に、印旛地区に限定された

民間路線バスへのフレイカ利用措置や、運行ダイヤの再編内容、パブリックコメントの対応方針など、今後の交通施策についての進捗状況や方針を明確にする必要があります。これらの点について、市としての現状認識と具体的な説明を伺います。

(1) 印旛地区の民間路線バスへのフレイカ利用限定措置について

協議事項1において可決された、印旛地区を運行する民間路線バス（印旛学園線、宗像路線、六合路線）のみに対してフレイカが利用可能となることの理由について、「道路状況や運行経費などの課題によりふれあいバスの新たな路線運行が難しいから」との説明でした。この選定基準であれば、他の民間路線バスも該当するのではないかと考えます。特定地域のみ限定するこの方針は、公平性に欠けるのではないのでしょうか。どのような理由で他の民間路線バスはフレイカ利用が可能とならなかったのか、どのように精査したのか伺います。

(2) 運行ダイヤの再編について

運行ダイヤの再編について、具体的な内容が一部しか示されていない状況です。特に、鉄道駅との接続を重視している利用者が多いため、鉄道駅接続時の時刻表についてどのような工夫や改善が図られたのか、民間路線バス会社とどのような協議を進めてきたのか伺います。

(3) パブリックコメントの実施スケジュールについて

本公共交通会議において、2月25日から3月25日の1か月間で実施予定と報告されています。このスケジュールで確定と考えてよいのか、さらに、パブリックコメント終了後の今後のスケジュールについて伺います。

(4) パブリックコメントで寄せられる市民意見への対応方針について

市民から寄せられる意見について、市としてどのように対応していく方針であるのか、具体的に伺います。

3 印西市景観条例・環境基本条例の運用状況及び景観計画について

近年、印西市ではデータセンターの建設や新規参入企業による店舗、看板の新設・改築など、開発が相次ぎ、まちの景観に影響を及ぼしています。また、景観条例に基づく景観計画の基本方針として、「歴史・文化の風情を大切に、次世代へと継承する景観づくり」が掲げられていますが、近年の開発地域における景観形成の現状を見ると、この目標もどこまで尊重されているのか疑問を感じます。さらに、道路沿いの景観維持に関しても、市道・県道・国道を問わず、私有地から樹木や雑草がはみ出し、安全確保や景観維持が損なわれていると、市民からの除去要望が絶えません。景観条例や環境基本条例の観点からも、道路沿いの景観維持は重要であり、市が私有地の所有者に対して適切な指導を行うべきではないかと考えます。以上を踏まえ、印西市の景観条例や環境基本条例が十分に機能しているのか、現時点における景観計画の運用状況を

確認するとともに、今後の景観保全施策について伺います。

(1) 景観条例の遵守状況について

近年の開発案件における景観条例の事前協議や届出の状況、及び市の審査基準の運用実態について伺います。

(2) 屋外広告物の規制と景観保全について

屋外広告物や看板の色彩基準や大きさ等の規制についての運用状況、及び違反事例への対応状況について伺います。

(3) 景観計画の運用と実効性について

旧街道の風情や地域の伝統文化の景観継承に関する具体的な取り組み、運用状況について伺います。

(4) 道路にはみ出した樹木や雑草の景観への影響と対応について

市道・県道・国道において、私有地からはみ出した樹木や雑草が安全性や景観に影響を与えている事案について、私有地であることを理由に対応が制限されている現状があります。道路法や民法の規定に基づけば、行政として一定の措置を講じることが可能であり、市民の安全確保や景観維持の観点からも、市には管理責任を踏まえた適切な対応が求められます。そのため、私有地の管理者に対して、より積極的かつ適切な指導・対応を行うべきではないかと考えます。市はどのように認識し、私有地の所有者に対してどのように指導や対応を行うべきと考えているのか伺います。

(5) 今後の景観保全施策について

景観条例の実効性を高めるための今後の施策や、市民が景観づくりに積極的に関わるための具体的な取り組み（市民参加型の景観保全活動の推進など）について、市はどのように考えているのか伺います。